

池田文書の研究 (三十二)

児玉少介・愛二郎の書簡について

池田文書研究会

一、児玉少介の略歴

少介は、天保七年生十月萩藩士児玉惣兵衛の長男として生まれる。明治五年京都府および奈良県に出仕さらに正院八等出仕となり、大蔵省を経て明治九年頃内務大録に転じる。明治十四年参事院准奏任御用掛、明治十五年工部少書記官となり、明治十六年統計委員を兼務、明治十八年総務局記録課長、明治二十一年臨時建築局事務官、元老院議官に累進、ついで非職。明治二十六年依願免官。明治二十九年貴族議員。のち大阪商船株式会社、入山採炭株式会社の監査役となる。明治三十八年十一月十三日鎌倉の別荘で死去。著書に『化影鶴蹤』がある。

二、児玉少介の書簡

少介の書簡は四十四通の多くにのぼる。うち一一通はすでに『東大医学部初代総理池田謙斎(下)』に掲載した(一覽表※印の書簡)のでここでは省く。

内容はほとんどは少介およびその家族の病用に関するもの

で、とくに晩年の少介の消息をよく伝えている。

三、児玉愛二郎の略歴と書簡

萩藩出身で児玉少介とよく混同される人物に児玉愛二郎がいる。愛二郎の書簡が池田文書に二通ある。

愛二郎は、天保十一年(一説に天保十年)生まれ。元治元年俗論党の同志と井上聞多(馨)を襲い重傷を負わせる。明治五年頃宮内省少丞となり、以後杉孫七郎のもとで宮内官僚としての道を歩む。明治九年頃権大丞、十年頃権大書記官、十四年頃皇后宮亮を兼ね、十五年頃大書記官に累進。のち大膳大夫、図書頭をつとめる。昭和五年死去。著書に『隨幸私記』がある。

書簡(三〇九九号)は『東大医学部初代総理池田謙斎(下)』において児玉少介のものとして掲載してあるが、ここに愛二郎のものと訂正しておく。

1 明治()年七月二十七日 (三〇九五号)

謹啓、時下酷暑ニ際し候所台座倍御安泰奉拜賀候、炎熱烈敷とは乍申先凌能方ニ有之、数日浪華ニ滞在奈良へも罷越漫遊仕候、浪華にて石黒国手同宿ニ相成朝暮雑談冗話中此際山中にて幽静之場を撰ひ罷越可然心付有之、小生も避暑山間を望ミ居、且末タ北陸之地方一見も不仕候間加州山シロ、山中トカ申温泉場へ可罷越と存、従是路を北陸ニ枉ヶ暫ク右地方へ

罷越ス積ニ御坐候、尤戦地之情況ニ依リ候てハ山中にて号外を遅ク閱し候も遺憾ニ付、早々帰京可仕候とも考居申候、右之仕合にて残痾段々快方ニ有之、不絶洗胃灌腸ハ必隔日ニ仕申候、服薬は勝見氏之分於今携居、旅中食事度々と申様ニも難相成、一日兩回位相用ひ申候、又体量も二百目位は増加仕申候、御蔭にて今日之快期を得候段忘却難仕候、浪華滞在中井上伯伊藤侯等来会旅況俗了^{（俗）}は仕候へとも奇談を聞申候、翁等ノ举动壯健ナル事唯艶羨までニ御坐候、旅中興援筆略述書外在拜語、頓首

七月廿七日

少介

成蹊老主坐下

乱筆降恕、節は客愁旅恨杯之字有之、又一日数里程を歩し数百里を帰候得ハ如何ニも旅恨も有之候 処、数百里程数時間ニ往来相成、客思旅恨杯は夢 ニも入り不申、却て往事回想仕候也、再拜

萍跡未定候間御答を不要候也

2 明治（ ）年二月末日

(三〇八七号)

奉啓、時々春寒烈敷候所倍御安寧奉拝賀候、当地御令室様追々御快被為在候由御安意之御事奉存候、小生儀段々快候へ共寒氣如刺爐辺而已温養罷在、近頃別紙之服薬仕居候間此段申上置度御聞置奉希上候、今朝御別荘へ鄙价を伺候所、五日過ニは御来荘ニも可相成敷之御様子ニ承リ御挨拶上候、為右

不彊、頓首

二月末日

少介

成蹊堂大守坐前

3 明治（ ）年 月 日

(三〇六四号)

辰十二月卅日御処方、薄荷入極苦味烈キ分、右相用ひ候内は一回も臭燻無之、其後口中乾燥之儀申上改て御薬頂戴及御所方書拜受相用候処、其後折々臭燻を発シ、過ル廿二三日頃少量之下痢有之、直ニオピウム入丸薬相用下痢止ミ申候、廿五日ヨリ更ニ十二月卅日ノ御処方之水薬苦味之分相用ひ居候所全ク臭燻之氣味無之候間右相用居申候、粉薬は御処方通用ひ居申候也 少介

4 明治（三七）年一〇月一四日

(三〇七〇号)

昨十三日之貴牘昨夜到著奉拝披候、縷々御懇示乍早晚不禁感謝候、此節も大概一日四五回ニ食事仕候は、一度ニ多量食し候より少量宛数度ニ食し候方折合も能く、且寂寥を歴し候為メニも有之、午前六七時之間朝軟飯一碗、汁一碗、外ニ少許之塩物、コンテンスミルク紅茶ニ和し一碗、九時より十時頃まで牛生肉液半斤分四五勺、十二時軟飯小碗ニ、肉魚類野菜、肉魚菜共少し口中へ嚼ミ残り候へハ直に嚼出し是は昨年より癖ニ相成少しニても硬キものハ飲込難ク嚼ミ出し申候、三時

頃葛煉リ又ハ卵乳製菓子ノ類、晩パン、スーフ、半熟卵又ハ肉一二鬻、コンテンスマルク人参汁ニ和シ、先右之類食用、朝をパンニ致シ又は夜分パンヲ用ひ候杯取替へ用居申候、折々洗胃致し候へ共濁り候事一切無之灌腸ハ必隔日ニ仕候、酒は飲欲無之、只錫ヲ止メ候ニ昼食ノ時ヒール半瓶程用ひ申候、是も毎日ハ用ひ不申候、当地ニ屏居候へハ右殿重ニ被守申候、東京へ帰り奔走いたし候へハ、右時刻ニ食量を致し候儀難相成、とふも当地ニ居り候方空气能ク心配奔走等も不仕、菓餌食事も時刻を不違、自然快氣を覚へ申候、降示之通今日ヨリ御分量被下候葡萄酒相用ひ可申候、是まで麦酒之方折合能、秀雄君よりも被許候間用ひ来り申候、御菓は御処法被下候通勝見氏よりも申受今日より頂戴仕候、末女婚嫁ニ付本月下旬ニは非四五日間帰宅不仕ては不相成候間、不違拝語万御礼可申上候、然は遼陽会戦大捷利之報告実ニ無上ノ慶事、是にて愈旅順連絡も絶断、不日降陥之嘉報ニ可被為接、嚴霜降雪ノ頓ニ不至一段之了局ニ可及、劍氣冲天とは頃日遼陽ノ形況と被察申候、春敵候之秘書御返済被下候由るすヨリも申越正ニ落手仕候、さて御寄贈之尊味、流暢婁婉層々數字隱者境界被言尽流石ニ御老熟感佩、巻舒再三他日巻中ニ装入致し可入貴覽候、彼は御懇切萬々奉感銘候、頓首

十月十四日午前八時

少介

池田尊台々々

追て接養之儀は昨年来之癖にて自然接養之外無之御省慮奉希候、再謹

7 明治()年十一月二七日

(三〇六三号)

奉啓、一兩日前ヨリ新寒相催し今朝米霏雨凍雲一層寒氣を覚へ申候、当地此氣候ニ付都下は敵敷儀と存候、尤自分之枯瘦より一際寒氣を感じ候かと存申候、尔後ノ容体、廿五日昼豚肉尤軟ナル所三四片食用候処臭も無之、廿六日昼牛肉軟ナル所四五片食用候処前同様、夕方牛乳一合紅茶ニ和し用ひ候所一向臭も無之、今朝も一合用候処臭無之候、右之仕合故先少しは快復ノ頓ニ進ミ候かと覚へ申候、地爐を取設ケ今朝ヨリ炬炬ニ熱シ冬籠之積にて蟠坐罷在候、対岸之風雲も静謐之様相見へ元老閣員之間は頗る熟し居様被伺、総て機密之儀不洩は感心之儀ニ御坐候、為右御報申上置候、不要貴答頓首

十一月二十七日

少介

成蹊堂老主左冲

8 明治()年二月一三日

(三〇六六号)

拜復、尊書奉拝展候、先日來少々胃痛差起り候処右ハ従前ヨリ一時止ミ又差起り候、過般來尊示之如く一日五回ニ食用致し見候処、短晷ニは有之毎食少々宛ニても食欲絶へ候間、平常之如く又三回ニ仕候所頓ニ食欲生シ腹合も宜しく候間三回ニ仕候、毎日胃部腹部按擦為致御患投与之水薬用ひ候所頃日は痛氣至て軽く、空腹ニ相成候得ハ少々痛ミ出し少量ノソー

ダ相用候得ハ直ニ治し申候、今日は少しも痛気感し不申候位ニ相成申候、苦味有之ソ一ダ入之水菓菓ニ適中を覚へ申候、尚又御処法御添被下明日勝見氏へ乞ひ貫ら受候て相用可申候、御懇情之段万々奉感激候、食事は大概之物尤極軟之もの而已食ひ候へとも分量は至て減量ニ仕候、少し料理和らかなるものにて、少しも多キ時は飯一碗ニ止メ申候、其方向トナク折合よく候間右様仕居候、扱尊家御病人様如何被為在候哉、寒気へ向ひ別て御配慮之御事奉存候、鎌倉へ御出御差止メ之由失望仕候、為右拝答御礼旁申上候、頓首

極月十三夜燈下

少介

追て過日拝願之短冊何卒御間暇之節御揮筆

拝望候、旧友之詩歌防寒屏風ニ貼用晨晡対覧交情を温メ候ハ、又接養之一助御諒察奉希上候、再謹

成蹊堂老主坐前

10 明治()年六月七日

(三〇八五号)

(封筒表) 池田謙齋様 児玉貞持参

(封筒裏) 児玉少介

奉願、予て郵書を以テ申上候同姓壮介妻貞参上仕候間御診察

奉願上候、頓首

六月七日

少介

池田様坐下

11 明治()年二月一七日

(三〇五七号)

奉啓、昨日は蒙御患預久振緩々御拜語、且御診察を受、旁素望之至ニ奉存候、佐野ノ長談ニは御迷惑奉存候、引続今朝快方ニ有之申候、然は雲丹、鶏卵沢山御患贈被下、意外之盛賑千万奉拝謝候、今朝早く御帰邸ニ相成候由、御令児様御出征ニては御気懸リニも可被為在、小生如キ隠遁者ニても意外ノ俗用時々差起り、御多人数之御一族様不容易御事奉存候、為右寸楮奉拜呈候、頓首

二月十七日

少介

追て種々頂戴物御配意之段呉々も奉恐縮候、敬て御礼申

上候、再拜
池田尊台坐前

12 明治()年一二月二二日

(三〇五六号)

(葉書表) 東京市神田区北甲賀町九 池田男爵閣下、鎌倉長谷児玉少介、十二月二十二日(消印)、相模鎌倉、切手、老銭五厘)

謹上、小生昨今容体左ニ、昨日下痢少量二回水瀉ニは無之、段々減し候方ニ有之、御薬之効顯と奉存候、食事ハオートミール サイゴンへ、鶏卵粥、牛肉液スープ、カキ、ハンペン等ノ類ノミ代ル々々致し居申候、追日平癒可仕奉存候、右申上置候也、頓首

13 明治()年五月二〇日

(三〇九七号)

稟申、過日は早速御来診被下候段方々奉感銘候、御来診後、十八日夜二時水瀉少量、十九日午前六時水瀉少々分量多ク其後腹鳴不絶、下痢催し候気味有之候へ共、其後唯今まで無之、腹鳴も昨夕より止ミ下痢催し候気味も昨夕より無之、放屁致し候テモ迸出等之事も無之全ク締結候事ト考申候、日々腰湯ハ仕候、臭暖一切無之、一昨日御申間通リ下痢留り候は薬効と奉存候、食禁を守り静養而已罷在候、全ク御蔭にて速ニ快治を得候段重々感激罷在候、唯今之所情備ニ不堪候へ共是ハ難免不日平治ニ随ひ復し候事と考居候、拜手々々

五月二十日

少介上

池田尊台閣下

14 明治()年五月一八日

(三〇九六号)

稟申、大阪滞在中過ル十四日午後下痢を催し水瀉少量、同夜二回同、直ニ二十五粒ツ、相用候様予て御下命之ヲピユム入丸薬相用ヒ、十五日十六日十七日昼マテ八貼相用候へ共下痢溜リ不申、一昼夜四五回水瀉少量、昨十七日昼マテニテ右丸薬尽キ申候、汽車動揺ハ支り候様ニも考候へ共帰宅不致候ハては不相成、押て東海道にて二泊にて唯今二時五十分帰宅仕候所別段差支り無之候、食事ハ道中ニても粥鶏卵パンノ外(行間、菓物ノ酸)不相用、昨日より少々眩暈有之候間プランジ

ヲ少々宛三回相用申候、食事不足ノ故か下痢ノ故か不分明候、今日も早朝より二回水瀉少量、右容体申上候間御薬御下附奉願上候、頓首

五月十八日午後五十五分

少介

池田尊台閣下

15 明治()年一月二日

(三〇九三号)

新禧台賀過日は御病人様被為在所御繰合御来診、御懇慮之段万々奉拜謝候、尔後如何被為在候哉、御配意之程奉拜察候、小生儀引続キ降命之通服薬仕候所、下痢全ク止ミ胸痛も減し候て仕合居申候、夜分口中乾燥は強ク二三回は夫か為メ眠を覚し候へ共、誠ニ適當仕候覚へ申候間口中之乾燥位は忍ひ候ても相用ひ度奉存候、此段の現状申上候、頓首

一月二日

少介

池田尊台閣下

16 明治()年一月一七日

(三〇九四号)

奉啓、時下厳寒倍御健康可被為在奉拜賀候、御令室様尊恙も次第ニ御快方ニ可被為赴御安意候儀奉存候、小生儀御蔭を以テ段々快ク、御改方ノ御薬ノ為メニ候哉少しも胸部ノ痛ミ感じ不申、御薬は寸時も不違相用居申候、敬て御礼申上候、大阪にて少々用事も有之、切要之儀ニは無之候へ共旅行接養旁

明十八日より発程数カ所へ留泊寒氣ヲ避ケ罷越候積ニ御坐候、途次三泊も仕候へハ恰も廊下伝ノ如く運動適宜ニて是まで大ニ爽快を覚へ候間罷越候事ニ仕申候、此段申上置候、頓首

一月十七日

少介

追て廿五六日頃ニは必当地まで帰り候積ニ御坐候、某内敵寒ニも相成閣下御避寒思召立如何、都下空氣ノ如く圭角無之、申までも無之候へ共却て閣下ニ向ひ勤告申上候也、再拜

池田尊台坐前

食事ハ何ニ限ラス軟ラ之品少々宛相用、洗滌水少しも濁リ無之臭燻も絶て無之、体量も少々増加一層接養罷在候也

17 明治()年五月二十九日

(三〇五五号)

昨廿七日午後一時頃拙束奉拜贈候後、又牛乳一合午後三時之食事ニ用ひ候所、忽チ停滞致し、晩方ヨリ臭燻頓ニ発シ例ノ如く腹鳴有之、直ニ洗胃仕候所不可言悪臭之胃液を出し、直ニ宜しキ事と存候所、九時頃より今曉五時まで下痢四回兩度多量、夜半頃ヨリ今朝までオビユム用い薬二回相用申候、右ニて全ク止ミ腹鳴も無之回復仕候、牛乳適切ニ害ある事大ニ懲リ申候、最早生涯牛乳は差止候外無之と落着仕候、昨夜半之様子ニては、煩御来診度とまで考候所、全々一時之事ニ有之申候、此段申上置候、頓首

十一月廿八日午前十二時半
成蹊堂博士台坐下
介

不奉煩貴答候

18 明治()年八月三日

(三〇六五号)

奉啓、尔後御疎曠ニ打過候所愈御安寧奉台賀候、先日米加州山中温泉場へ罷越一昨日帰庵仕候、旅中ニて一夜臭燻を発シ候処果して翌朝下痢水瀉を催し、直ニ用意ノ丸薬を用ひ候処二回ニて止ミ申候、引続兩日白キ粉薬服用全ク快復仕候、右は原因有之、従来(行間、近来之事)鷲印コテンスメルキ紅茶ニ和し用ひ候所少しも支リ不申、山中浴湯場ニて右鷲印メルキを尽し他ノメルキ外無之ニ付精解を撰ひ飲用候所甘味過キ候様覺へ申候、其後三四時間を経臭燻差起リ申候、旅中ニても隔日又は三日目ニは洗胃灌腸ハ不怠候処、尔後ハ毎朝不絶洗胃仕候、苦味入之水薬大ニ効能有之候様覺へ申候、右之次第ニて大キニ快く帰庵後尤も爽快を覺へ候、此段の現状申上候、此般は所々巡覽候処其内佳良之風景有之候へ共、山を品シ水を評候好伴ノ無之ニは遺憾を極メ申候て俗了一詩も半句も無之候、不遠帰京仕候積ニ付可奉得拜語候、頓首、

八月三日也

少介

池田尊丈坐下

19 明治()年五月二二日 (三〇六二号)

稟申、過日は蒙御来診敬謝之至奉存候、其後ノ經過左ニ申上候、二十日午前六時頃下痢致し候而已ニテ、其後絶て無之腹鳴も不致、全ク薬効有之候儀と奉存候、倦体も漸々健氣浸し候様覚申候、御薬は降示之如ク今朝まで相用申候、今日までニテ三日便通無之、本日はリスリン催下薬差入通し付候様致度、右ハ何如之ものニ可有之候哉、尊示を奉仰候、御薬尊考を奉煩度懇願仕候、軽微至極ニ候へ共、唯今長崎ヨリ届候間、カステラ少許入貴覽候、後試味被下候ハ、大幸

五月二十二日也 少介

池田尊丈台下

26 明治()年一一月九日 (三〇九一号)

謹上、態々御来駕台診を蒙リ奉拝謝候、御目鏡御差置ニ付差出申候、為右申上略候、頓首

十一月九日 少介

池田尊台坐下

27 明治()年一二月二五日 (三〇七二号)

奉啓、一昨夜密雪降積候処今日は隠ナル天氣ニ快晴仕候、東京も降り積り候由、年内此度ノ如キ降雪ハ珍敷と当地ノもの

共居候、私儀一昨夜より今晝まで下痢七八回尤少量ツ、ニ有之候間別段疲労も不仕、昨朝より例ノ丸薬三回相用候故か今朝来全ク止り申候、食事は申上候通り少しも支り候もの相用不申、此節は申上候通三回ニ仕候へ共、朝ハ牛肉液五六勺肉目方百目分、玉子黄身ニ、パン小片二切と定メ申候、昼は軟飯ニ二三種之添物、晩食も同様、毎昼夜共軟飯一碗乃至ニ碗丈ケニ止メ申候、洗胃液は少しも汚濁無之候、今日より勝見氏ニテ処方水薬相用ひ申候、最早快復仕候間申上候程之儀は無之候へ共昨夕頃引続下痢不止時ハ困難と存申候、臭嘔之氣味は少しも無之昨今ハ昼晩も粥ニいたし用ひ申候、空腹ニ相成候と胸部之痛ミ食事少量ニ付空腹ニ成り勝ニ有之葛湯ノ一碗も用ひ候得ハ忽治し申候、右申上置候、別段不要御答

十二月二十五日 少介頓首

池田尊台坐前

28 明治()年四月二四日 (三〇八三号)

(封筒表) 池田謙斎様親展
(封筒裏) (印章) 東京麹町区内幸町壹丁目六番地児玉少介

謹啓、小生召仕候例ノ御直ニ候 子宮痛長ク相悩ミ引続ギ治療も仕居候へ共其効無之、素人ノ考ニは崩漏とも可申症かと被相考申候、尊駕を迎へ台診を願ひ候は誠ニ恐悚之至ニ候へ共幼児も有之荊妻至て心配仕候上一応尊診を願度申居候、御都合之

節にて宜しく御来診被賜候ハ、一同安心可仕候、尤既に差迫り候病症ニは無之候間決て差急キ相願候次第ニは無之候、此段奉拝願候、頓首

四月廿四日

少介

池田尊台坐前

29 明治()年一月二四日

(三〇七一号)

奉啓、時下御安泰可被為在奉拝賀候、小生儀不相変快方ニ有之、旅行中天气温和にて誠ニ仕合申候、明日より鎌倉へ帰り候積ニ御坐候、近況左ニ申上置候、食制尤注意仕洗條水少しも汚濁無之、随て臭嘔氣も無之候、大便ハ通し無之之故隔日灌腸仕候所、灌腸水容易ニ出切不申長ク堪候てリキミ出シ申候、糞ノ大サ誠ニ細ク小指位にてポツタ々致し申候、肛門内別ニ痛ミも無之候へ共何カ障碍物をも出来不申かと被考申候、夜分口中乾燥舌上乾キ候為メ一回若クハ二三回覚眠仕候、是ハ飴を枕頭ニ備へ置又ハ味柑にて相凌キ更ニ就眠仕候、如何ナル原因かと存居申候、其他異常無之只灌腸脱糞之節残り之水を絞リ出シ候は誠ニ快カラザル様覚へ申候、右申上候、御参考被成置度奉伏望候、今朝天下茶屋へ参リ存虜取容之様子一覽仕候、体格長短、年令ノ差違を見候得ハ、兵制も厳確ニは無之かと被考申候、近日一応鎌倉へ帰り不日帰京万可申上候、頓首

一月廿四日

少介

池田尊台坐下

30 明治()年四月二三日

(三〇八二号)

奉啓、一昨日は度々御妨申上候、尔後昨晚マテ三回下痢有之一回多量、昨日は通便無之全ク速ニ御手当を蒙リ候故差止り候儀と奉存候、今日も於今便通無之胃中溜り物も無之全復仕申候、兩度之暴瀉にて過日已来増加致し候体量丈ヶ減し、誠ニ残念之至御坐候、御藥ハ御申聞之通今朝まで丸藥十顆宛相用、尔後兩三日粉藥相用候積にて今午後より用ひ初メ申候、右御礼、其後之容体申上度奉呈寸楮候、頓首

四月廿三日

少介

池田尊台坐前

31 明治()年一二月九日

(三〇八六号)

謹上、井上伯ヨリ承り候へハ東京は已ニ霜柱起立之由、当地も朝ハ寒氣ニ候へ共左までノ寒氣は感じ不申余程違ひ候事と存候、小生儀早晚も申上候通氣分は至て爽快ニ有之食事も進ミ申候へ共勉て少量ニ仕居候、便秘は如例隔日又は二日隔灌腸、胃は必隔日ニ洗條仕候、然る所十日程前ヨリ夜間少々舌上乾燥、為メニ安寝を不得水飴を嘗メ候て舌咽喉を濕し寝ニ就キ申候、一兩日は烈敷乾キ三四十分毎ニ眠を覺し候程ニ乾キ候て昨夜は終宵安眠を不得次第ニ御坐候、全ク胃中何カ禍

を成スニ相違無之候得共胃中別ニ傷ミも感シ不申候、如何之者ニ候哉御考按被賜御薬有之候ハ、御方書被下度、然レハ勝見氏ニテ調劑相頼ミ用ヒ度奉存候、勿論爐辺ハ遠ク去リ候て寢所ニ仕居別ニ原因無之、不知々々ニ胃中より醸し出し候事と存候、御薬は頃日水薬之外相用ひ不申候、此段可然奉伏願候、頓首

十二月九日

追て沖君へ御来訪御序有之候ハ、必御枉駕奉希候、尚又末女之儀追々快候由申越御蔭ニて不遠快氣を得候事と被考、千万奉拜謝候、再謹 少介

池田尊台坐下

32 明治()年一月九日

(三〇六九号)

奉啓、過日は尊書御惠贈奉拜謝候、急ニ俗用出来一泊ニて帰宅仕候て昨夕当所へ戻リ申候、然は御病人様段々御快被為在候御現況昨朝電話ニて伺ひ誠ニ奉欣然候、先頃之御容体ニてハ如何かとの御事ニて深ク御案し申上候処、御平快と之御様子御安心之程万々奉拜察候、先日は旅順陥落御高咏被似露難有、彼我之情況被言尽感服仕候、小生腹稿中、順逆人為豈在天請看暗主祀山川「始皇」七年苦業脆於艾炕却奉天渤海烟、七年之病三年艾より想出し申候、真ニ未定草ニ候、台教幸甚、小生儀段々快方ニて、洗滌水少しも汚濁無之、心下ノ痛少しも無之、夜分口中乾も余程軽く相成申候、命あれハこそ如此

隆世ニ遭遇セラレ、閣下之台助ヲ以テ今日之快氣を得嘉報毎々も爽快を覚候、従来とても天寿を了し度故数年来奉煩台診候処此隆盛ニ遭ひ、一日も前途ノ旺運ヲ経聞シ度欲念を生シ一層接養仕候積ニ御坐候、敵国ト雖モ他国ノ損傷を以テ僥倖を望候儀は丈夫之所愧又所難期ニ候へ共、時トシテ意外ニ速ニ戦局終了ヲ告ケン歟ト占量被致候、閣下為如何奈、右現状具申仕置候、頓首

一月九日

少介

追て御病人御快氣、御当人様ハ勿論尊台將來之御安心誠ニ敬賀仕候也、再謹

池田尊台坐下

33 明治()年一月二十四日

(三〇六七号)

謹啓、向寒之候台下倍御安寧奉拜賀候、小生儀過日来大阪罷越昨夕帰京仕候、旅中誠ニ健康ニて大キニ仕合申候、紅葉真盛ニて旅況を不覚候、明後日より帰京暫時滞在候間參候方可申上候、頓首

十一月二十四日

少介

追て御蔭ニて旅行も相成候、健康を得忘却難仕候也、再謹

池田尊台坐下

34 明治()年六月二〇日 (三〇七四号)

貴牘奉敬誦候、折しも黄梅繁陶敷候所、愈御安寧奉敬賀候、賤丞引続快方ニは有之候へ共、時々痙攣を生し是も暫ク揉ミ候へハ直ニ軟ラキ、心下痛ミもソーダニテ直ニ止ミ申候、昨日より上途帰東路上セ外伯を湯元ニ訪ひ度積ニ御座候、セ外伯病氣ニ付候ても御配意之由、併親面子より報道ニテ稍回復之由安意仕候、御佳詠御贈惠多謝々々年々歳々人不同ノ意を了し尽し感服仕候、殊ニ御寓意之有ル所今首之御感情字句ニ溢れ申候、田中なか魚品ノ燈標依旧閃々招人ノ現況不相変盛ニ被伺申候、小生御警戒ハ万々難有右は望候共難成得御省慮奉希候、不遠帰京可得参伺候、頓首

六月二十日 小介上

池田大人仁兄高風下

36 明治()年五月二〇日 (三〇六八号)

復上、口中乾燥之儀申上候所早速御処法御贈惠被下、勝見氏へ申入直ニ調劑本日より服用仕候、不被棄置段万々奉敬謝候、海軍損傷之悲報驚愕之至ニ候、艦は古艦ニ候へとも、教育ある血気軍人之死傷実ニ遺憾無窮次第ニ候、陸軍進撃ノ捷報今日之号外ニテ閱覧候へとも未タ明瞭ニ無之、向後激戦数次を不経候上ならては結局ニ至ル間敷愈一大戦ニ可相成と被存候、昔しは吾邦諸侯三軍を率ひ一区域争ひ、今は王帥六

軍を用テ国を略し、実ニ歴史上ノ大変態、御互ニ此走馬燈ノ如キ時節ニ遭遇セしは千載之一隅と存候、寸時も速ニ局を結ひ候様相成度杞憂之余り煩念罷在候、右御礼御答旁申上候、頓首

五月二十日 少介

池田大人函丈

追て末女儀精々不怠接養仕候段荊妻よりも申越不日全快を可得と奉存候、以上

37 明治()年一〇月末日 (三〇七三号)

拜復、末女縁嫁ニ就キ御祝被下候て不存寄御品御惠贈被下誠ニ意外之至奉恐懼候、折格之御厚意敬て奉拜受候、内話拏て難有頂戴仕候、書余拜眉萬可申上候、頓首

十月尽 少介

池田男爵閣下

38 明治()年二月二四日 (三〇八一号)

(前次)ラバル、重曹、メンタ油、右之通有之候間、勝見氏へは不申通候、小生儀難擱用事も有之(行間 今一応相伺候上ニ仕度奉存候)、廿五日夕か廿六日早朝ニ鳥渡帰京仕度積ニ御坐候間、委細拜語可申上候、右之容体ニ有之、御礼御答旁申上置候、尤小生帰京之儀は御秘し置奉希候、帰京之上勤

メ仕出し候と際限無之候間僭居之積ニ御坐、併貴家へは一応
遂参候積ニ候、為右申上候、頓首

極月二十四日午前 少介

池田男爵台下

39 明治()年六月一日 (三〇八〇号)

(前欠) 分折々難被寝、引続二三夜も合睦難仕時は眩暈之氣
味を生し候間、勝見氏ヨリ鎮痙劑を貰らひ候て用ひ申候、右
相用ひ候得ハ安眠を得候へ共引続キ難用と存大概差ひかへ居
申候、因て、催眠術、常用薬、頭痛薬、右頂戴仕度奉拝願候、
いつれ□三内参堂方可申上候、頓首

六月十六日 少介

池田男台々下

40 明治()年三月三十一日 (三〇七九号)

奉啓、絶て曠礼打過申候処愈御安泰奉恭賀候、御用忙中奉恐
入候得共翹町区山本町三丁目二番地中邸榮吉と申候者、私方
之予て罷越候ものにて至て正直質ニ候処(行間、神經質ナリ)
一兩年前ヨリ肺疾ニ罹リ困憊罷在候、素人目ニても快徵は無
之候得共一応尊師ノ御診察を被り候ハ、假令快氣不得仕候共
家族且懇信之者とも安堵仕候趣尤之儀申来り候間従私奉願出
申候、不敬之儀仕候様之ものニ無之候間渥ク奉拝願候、頓首

三月三十一日 少介

池田老国手坐下

追て本人不治を心配いたし居候間、能々御ナダメ置被遣
度奉希候也

41 明治()年二月一日 (三〇六一号)

奉啓、私親友邸上倫儀宿疾有之、神經病と被察候、渥ク御診
察奉願度候、不敬之儀は不仕者ニ御坐候間可然当人之申分御
聞取奉希上候、頓首

二月一日 少介

池田老国師台坐下

42 明治()年一二月二二日 (三〇五九号)

拝展、如命嚴寒之候愈御清穆被為在奉恭賀候、擬白絹并緑鴨
一双御惠贈を被り、実ニ意外之盛賜奉感佩候、乍併歳抄別て
御用忙之折柄御配慮被成降候段万々御氣の毒之至奉存候、何
れ不日拜参可奉拝謝候得共不取敢御礼乍略儀附寸楮申上略
候、頓首

十二月廿二日返

池田老国手台下

追て御懇贈之段幾応も奉拝謝候、従是こそ曠礼打過申
候、再拝

43 明治()年十一月十七日

(三〇八四号)

(封筒表) 池田謙齋様至急内啓

(封筒裏)

(付札) 官吏児玉少介

略啓、予て御望之佩玉命シ置候処、漸選ひ出し候趣にて切ニ申来リ申候、弊庵ニ於て可呈台盼候間御差繰可相成日限時刻等御申聞奉希候、尤午後五六時頃より已後の方宜しく、来客を謝し候都合有之申候、後参省今日は泊当番と承り申候有之候ハ、脩史館え鳥渡降投被下度奉存候、頓首

十一月十七日

少介

池田老臺坐下

46 明治()年十二月一日

(三〇九八号)

(封筒表) 池田侍医殿親展

(封筒裏) 宮内省児玉書記官

御清適奉恭賀候、さて小笠原氏病氣ニ付てハ過日来不容易御尽力被遣候由、小生等ニ於テモ御厚意之ほど難有奉万謝候、御蔭にて追々軽快ニも赴キタル由、然ルに昨夜ハチト発熱等も有之候由一同大ニ心配イタシ居申候、此節尊家ニも御病人様も被為在候由にて万々申上兼候得ども、本日中ニ一寸ナリ

ト小笠原氏方へ御見舞被遣候ハ、難有奉存候、右ハ杉大輔より御願申上候心得ニ御坐候へとも本日ハ省務多用ニ付小生より呈書御願イタシ候様ニ被申付候間願ヒ出候次第ニ御坐候、幾重も々々御多用中恐れ入りタレ共前文之義御願仕候、甚申上兼候得ども何時ナラバ御都合ヨロシク存候ヤ御知らせ被遣候ハ、別して難有、左候ハ、当部ヨリも申入レ置候、御願迄
拜略

十二月十八日

愛二郎

池田先生坐下

児玉少介書簡一覧

※は『東大医学部初代総長池田謙齋(下)』(思文閣出版)に掲載。

登録番号	差出人	受取人	年月日	内容
1	3095 (児玉) 少介	(池田謙齋) 成蹊老主	7 27	在浪華：体調等近況報告
2	3087 (児玉) 少介	(池田謙齋) 成蹊堂大守	2 末	本人病状・服薬報告、来荘依頼
3	3064 児玉少介	不明		本人症状と服用薬報告
4	3070 児玉少介	池田	明 37 10 14	遼陽会戦
※ 5	3078 (児玉) 少介	成蹊堂(台座)	明	来診御礼、本人病状報告
※ 6	3088 (児玉) 少介	成蹊堂老主	明	8 6 本人病状報告
7	3063 児玉少介	成蹊堂老主		11 27 本人症状と食餌内容
8	3066 児玉少介	成蹊堂老主		12 13 本人症状と食餌内容
※ 9	3058 (児玉) 少介	池田	明	10 3 尊示に従い末女ベルツの診察受診
10	3085 (児玉) 少介	池田		6 7 児玉壮介妻貞の診察依頼
11	3057 児玉少介	池田	明	2 17 雲丹と鶏卵の御礼
12	3056 児玉少介	池田男爵	明 37	12 22 症状報告 下痢
13	3097 (児玉) 少介	池田(謙齋)		5 20 自己症状報告
14	3096 (児玉) 少介	池田(謙齋)		5 18 自己診断 大阪にて下痢
15	3093 (児玉) 少介	池田(謙齋)		1 2 本人病状・服薬報告
16	3094 (児玉) 少介	池田(謙齋)		1 17 病氣回復、大阪へ旅行予定
17	3055 児玉少介	池田謙齋	明	11 28 本人症状 食餌報告 オートミール、鶏卵、粥他
18	3065 児玉少介	池田尊丈		8 3 本人症状と治療法報告
19	3062 児玉少介	池田尊丈		5 22 本人症状報告
※ 20	3076 (児玉) 少介	池田尊台	明	12 20 謙齋へ病氣見舞い、本人服薬処方と歌短冊所望
※ 21	3089 (児玉) 少介	池田尊台	明	6 23 小女麻疹か、診察依頼
※ 22	3092 (児玉) 少介	池田尊台	明	4 22 昨日招待に預かり御礼
※ 23	3060 (児玉) 少介	池田尊台	明 38	7 20 調剤依頼、露国講和問題に就き
※ 24	3077 (児玉) 少介	池田尊台	明 37	12 18 本人病状報告
※ 25	3090 (児玉) 少介	池田尊台	明	12 17 本人病状報告、調薬依頼
26	3091 (児玉) 少介	池田尊台		11 9 往診の御礼
27	3072 (児玉) 少介	池田尊台		12 25 下痢 食餌内容報告
28	3083 (児玉) 少介	池田尊台		4 24 妻へ往診依頼
29	3071 (児玉) 少介	池田尊台		1 24 便秘 天下茶屋 俘虜収容
30	3082 (児玉) 少介	池田尊台		4 23 本人症状 服用薬報告
31	3086 (児玉) 少介	池田尊台		12 9 本人症状報告
32	3069 児玉少介	池田尊台		1 9 本人症状と旅順陥落詠感服
33	3067 児玉少介	池田尊台		11 24 無事大阪の旅からかえる
34	3074 (児玉) 少介	池田大人		6 20 (前欠) 田中なか症状報告
※ 35	3075 (児玉) 少介	池田大人	明	5 18 本人・末女症状報告、露国との戦況
36	3068 児玉少介	池田大人		5 20 本人症状と軍艦損害の戦況報告
37	3073 (児玉) 少介	池田男爵		10 尽 御礼 末女縁嫁ぐ
38	3081 (児玉) 少介	池田男爵		12 24 薬注文

39	3080	(児玉) 少介	池田男台		6	16	薬注文
40	3079	(児玉) 少介	池田老国手		3	31	中邨栄吉の診察依頼
41	3061	児玉少介	池田老国手		2	1	親友村上倫の診察依頼
42	3059	児玉少介	池田老国手		12	22	白絹緑鴨の贈物への礼状
43	3084	(児玉) 少介	池田老台		11	17	招待日相談
※ 44	3100	(児玉) 少介、 武英	池田尊台	明	1	20	診察戴いた邨上倫の死亡通知

児玉愛二郎書簡一覧

※ 45	3099	児玉皇后宮亮	池田一等侍医	明 17	4	17	宮内省 皇后宮より土筆賜下
46	3098	児玉書記官	池田 (謙斎)		12	18	小笠原氏病用